

# 会議・打合せ記録(要旨)

[担当区分: 庶務・給付・医療・計画・支給管理 **基幹**・全・その他]

会議名等	令和8年度当事者会 5月定例会	文責	障がい福祉室
日程	令和8年5月21日 午後1時30分～午後3時30分	場所	内本町地域コミュニティセンター集会室 & Zoom

## 1. 今年度目標等について

- ・年次目標について、昨年度からの変更点について資料を用いて説明を行い、出席委員全員が承認した。
- ・定例会スケジュールについて、2回目は7/14、3回目は11/19、4回目は2月(茨木市当事者部会との交流会を実施予定)。5回目は無報酬であるが、お疲れ様会を実施予定。
- ・出前講座について、依頼があれば委員から随時協力願いたい。
- ・バリアフリー推進会議について、5/26参加予定。
- ・地域会議について、実施日未定のセンターがあるが、各地区開催時参加願う。

## 2. 重層的支援体制整備事業(福祉総務室)について

- ・福祉総務室(以下、福総とする)から資料を用いて事業内容を説明。

### 【質疑応答】

- ・初めて聞いた事業。市報すいた等、周知啓発は実施しているのか。  
→<福総>ホームページや相談機関での説明など、色々な場面で周知している。
- ・地域との関わりが大切と思う。問題を抱えている人は発信ができない。民生委員との関わり等はあるのか。また、社協との役割分担についてはどうか。  
→<福総>地域との関わりが大切であることは大変理解している。吹田市社会福祉協議会には本事業の一部を委託して連携して業務にあたっている。民生委員など地域や民間の機関にも、多機関協同の会議において必要に応じて参加を依頼するなど、連携している。
- ・地域に散らばるCSWとの関わりは。  
→<福総>CSWも市が社会福祉協議会に委託している本事業に含まれている。既存の取り組みであるCSWについて、本事業の取り組みで他の機関や地域とより一層連携を深めているところ。
- ・困った当事者がまず相談する場所はどこか。  
→<福総>新たな窓口を設けているということではないため、まずは相談内容に沿った窓口にて相談してもらいたい。複合的な対応が必要な場合にはそれぞれの部署の受けとめ隊や多機関協働事業者である福祉総務室が連携する。各室課の取り組みとして他の部署と連携したものを、間に受けとめ隊や多機関協働事業者が入り、制度として連携していく体制を構築したもの。
- ・これは本市のみの取組みか。  
→<福総>全国的な事業である。自治体によって実施の有無がある。本市は昨年度から実施している。
- ・市外で就労中、困ったことがあった場合の相談窓口はどこか。  
→相談内容にもよるところはあるが基本的に本市で相談に乗り、必要に応じて他市町村に所在する関係機関とも連携する。  
・本市職員は皆この事業を理解しているのか。たらい回しにされるケースが散見されており、まだまだ浸透していないように感じる。  
→<福総>市内にも周知・啓発を行っている。これまで生じていたそのようなケースが課題として捉えており、本事業により受けとめ隊など連携調整する仕組みを作った。
- ・他市で本事業と似通っている形態の仕事をしているが、様々な事業所と絡めて問題解決に向かうケースがあることを実感している。大変良い取り組みと思われるため、今後本市全域に浸透していくこと

を期待している。

・他国で発行された障がい手帳を所持される外国籍の障がい者が、本市における手続きの際、長時間またされたと聞いている。本市において、国籍問わず行政サービスを提供する姿勢であるのか。

→<福総>そのような姿勢である。これからは、多国語しか話せない方の対応も受けとめ隊と一緒に対応方法を検討し連携する仕組みになる。例えば通訳などのサービスを所管する室課と連携して適切な相談対応を実施していくなどになる。

・今回配布された資料は視覚障がい者にも理解できる仕上がりになっていない。窓口でもそうだが、視覚障がい者に対する配慮をしてほしい。

→<福総>資料に関して、配慮がなく大変申し訳ない。大切な声として受け止め、障がい福祉室とも連携して今後改善していきたい。

・事業として走り出したのは分かるが、まだまだ支援が必要であるにも関わらず支援が行き届いていない障がい者がいる。福祉総務として、様々な問題が山積されていることを理解しないと、いくら事業として形を作っても機能しない。本当の解決を迎えられるように、是非頑張っていてほしい。

→<福総>今後、受けとめ隊等の相談スキルや他機関連携のスキルを向上させるよう努めていく。

### 3. 「障がい者児のための防災ハンドブック」について

・第2版について、資料に沿い、修正変更箇所の説明有。

#### 【質疑応答】

・第1版の残部は何部か。また、予算の残は使い切れたか。

→<事務局>予算は使い切った。残部は450部程度。

・第2版発行について、原稿を確認したところ、16ページについて、ルビがふられていない。

また、題名について、「障がい者児のための防災ハンドブック」とあるが、「者」と「児」の間に「・」を入れる必要があるのではないか。

→<A委員>他市事例を参考に、再確認する。

・すいたんの画像を付けてよいかは、事務局で確認することとする。

・外国籍の障がい者に向けて、英文版は刷れないかという話が出たが、今回は見送ることとなった。

### 4. 出前講座について

・チラシを活用し、ホームページに掲載したり、窓口において広報していきたい。長く使えるよう、原稿から、「令和8年度」は消す。また、申し込み方法について、簡素化を検討中。

・印刷は白黒よりカラーが良い。予算の都合上防災ハンドブック2版の発行部数に影響が出るがよいか。

→<委員全員>了承。

・1枚当たりの見積もりについて、事務局が確認することとする。どこに何部程度配置するか等、委員と事務局で協議の上決定することとする。

### 5. 吹田市地域自立支援協議会全体会議から

・当事者会委員が傍聴していたが、いい全体会であったと思う。互いに気兼ねなく意見が出し合い、その場に居た皆が一つになったと感じた。

### 6. ピアサポート啓発について

・当事者会の本年度の命題について、①ハンドブックに関して②出前講座に関して③ピアサポート啓発としている。その中のピアサポートについて、毎定例会においてピアサポートについてB委員から講義してもらおう。

・B委員より、資料に沿ってピアサポートについての説明がある。

**【質疑応答】**

・具体的な活動内容は。

→南千里公民館において月に1度自助会を行っている。そこでは、生きづらさを抱えた方たちが集まって互いの体験談などを語り合っている。

・誰でも参加可能か。

→可能。

・そういった方たちと語る際の気を付けないといけないポイントなどあるか。

→「こうなさい」というよりかは、「こういったものがあるよ」など、提案型で対話するようにしている。そういった場があることを知っているが、参加への第一歩を踏み出せない方への働きかけはどうすればいいか。

→電話やチャット等のやり取りなど、本人の負担が少ない形でつなげていくのが良い。本人の気持ちがおいてくるまで待つということも手であると思う。当事者会委員が活動についての理解を深めながら、それぞれの地域に戻り啓発していくことが良い。

**7. 今後のスケジュール**

・次回定例会予定 7/16 13:30~15:30 会場未定

**8. その他**

今回されたレジュメにルビがふられていなかったり障がい特性上、事前の資料送付が必要な委員に対し、送付されていなかった。事務局の合理的配慮に欠けていることについて、意見させてもらう。

→<事務局>対応に不備があり大変申し訳なかった。次回、改善させてもらう。

以上